

# 検査のパレット

今回は夏型過敏性肺炎（夏型肺炎）についてお話しします。

## ★夏型肺炎とは？

夏になるとよく風邪をひく、咳がいつまでも出る・・・もしそんな症状があったら夏型肺炎（夏型過敏性肺炎）かもしれません。肺炎といえば、冬に多いというイメージがありますが、最近増えているのが夏型肺炎で、風邪とよく似た症状なので、ほとんどの人はたいした病気と思わず放置しがちで、抗生物質で一時的に症状が改善されるので治ったと思います。ところが翌年の夏近くになると、また咳が出はじめるのです。こうしたパターンを数年くり返すうち、慢性化して肺の機能が次第に弱り、ちょっとしたことで息切れを起こし、さらに悪化すると肺が委縮し、酸素交換がうまくできなくなり、時には呼吸不全から危険な状態にもなりかねません。

この夏型肺炎は、アレルギーによる過敏性肺炎の一つです。過敏性肺炎には何十種類ものタイプがありますが、日本の過敏性肺炎の約70%以上を占めるのが夏型肺炎で、トリコスポロン・クタネウムというカビの一種（胞子は3～10 $\mu$ と微小）を吸い込むことによって起こる肺炎です。

## ★発症時期は？

トリコスポロンというカビは、温度が20度以上、湿度が60%以上になると活動を始め、高温多湿になるほど繁殖し、胞子をたくさん飛ばします。スギ花粉症が春季のように、こちらはカビが胞子を飛ばす夏期限定。ちょうど“冷やし中華そば”がメニューに並ぶ時期が発症シーズンで、真夏を中心にして6月から9月くらいにかけて特に注意を要する時期です。

## ★症状は？

咳や痰、悪寒、頭痛、全身倦怠感、体重減少、発熱、呼吸困難などの症状が現れます。咳はカラ咳が特徴です。

## ★診断と予防は？

夏風邪と見分けがつきにくいですが、アレルギー性かどうかを見極めること。つまり「抗原」に近くほど症状が重くなり、離れば軽減するという原則です。ほとんどのケースは自宅が発生場所になるので抗原は「自宅」。胞子を吸入後6～8時間で症状が起こりますが、原因が自宅のカビなので、自宅を離れると症状が治ってしまうことが多いのです。職場や旅行・帰省・出張先で咳が出ず、自宅に戻ったらまた咳が出るような場合は、夏型肺炎の可能性が高いといえます。自宅から離れ、原因となるトリコスポロンを吸入する環境から隔離することが一番ですが、簡単ではありませんね。予防方法として、環境改善が最も大切で、カビの繁殖しやすい条件を作らないこと。古い家屋では畳替え、気密性の高いマンションでの水回り部分のこまめな換気と掃除、特にエアコンのクリーニングとフィルターの洗浄は欠かせません。

★6月よりトリコスポロン・アサヒ抗体（保険点数900点・血清0.3ml）で外注検査出来ます。ただし所要日数が7～14日かかります。

毎年、夏風邪を繰り返すのはもしかして・・・夏型肺炎かも・・・思いあたれば呼吸器の専門医へ受診してみてください。

☆☆☆暑い夏を体調管理して乗り切りましょう！☆☆☆

文責：夏目 裕子 監修：石竹 久仁